

令和 6 年 5 月 21 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01096

研究課題名（和文）古墳時代の首長墓系列に関する地域研究

研究課題名（英文）Regional Studies on Chiefly Mounded Tombs in the Early Kofun Period

研究代表者

野島 永（NOJIMA, HISASHI）

広島大学・人間社会科学研究科（文）・教授

研究者番号：80379908

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：古墳時代前期の首長墓系列に関する地域研究は、古墳時代の政治的関係・地域間交流を把握するにあたって重視されてきた。広島県において首長墓系列に関わる地域研究を行った。

広島市の太田川下流域（広島湾岸）と、その東方、東広島市（西条盆地周辺）の古墳時代前期の首長墓系列を比較した。広島湾岸では前方後円墳が築造され、竪穴式石室を埋葬施設とし、漢魏の舶載鏡が副葬された。これに対して、東広島市（西条盆地）では円墳ばかりとなる。墳頂部に箱形石棺が複数埋置され、倭製鏡を副葬する。畿内政権との政治的関係の有無によって、墳丘や埋葬施設、さらには副葬品にまで明確な格差が生じていたとみてよい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

個別古墳に関わる基礎的情報（墳丘規模や埋葬施設、副葬品など）は重要だが、当時の社会情勢を推し量るためには、それだけでなく、古墳時代の首長墓系列を把握し、当時の社会体制・社会情勢を推測することも必要となる。中国王朝への貢賜関係を取り結ぶために瀬戸内海の航海、交通ルートの開発が行われたとみられる。安芸地域の首長墓系列の盛衰・消長については、当時の畿内政権との政治的情勢が関与しており、瀬戸内海域の移動ルートの変化にも起因することを想定した。古墳時代の地域社会の実情とともに、安芸灘といった自然環境に関する総合学習にも寄与する知見を提供することができる。

研究成果の概要（英文）：Regional studies on chiefly mounded tombs are considered crucial for understanding political relationships and interregional exchanges during the early Kofun period, a time without written records. The chiefly mounded tombs in the downstream area of the Ota River (Hiroshima Bay coast) in Hiroshima City were compared with those in Higashi-Hiroshima City (around the Saijo Basin) to the east. Keyhole-shaped mounded tombs were constructed on the Hiroshima Bay coast using pit-style stone chambers, and Han and Wei mirrors as grave goods. In contrast, in Higashi-Hiroshima City, all the round tombs have multiple box-shaped stone coffins, which are considered to be of a lower rank than pit-style stone chambers placed on tomb tops, and only the Japanese mirrors were buried. It is reasonable to conclude that clear disparities in mound shapes, burial facilities, and even grave goods existed, depending on the interaction with the Yamato government (central polity).

研究分野：考古学

キーワード：考古学 古墳時代 前方後円墳 首長墓系列 広島県

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 古墳時代の首長墓系列に関する地域研究は日本考古学において独自に発達したユニークな分野である。古墳の築造にあたって、墳丘形態（前方後円墳や前方後方墳、円墳、方墳）と墳丘規模には、政治的な意味合いが付与されていたことを前提として、連続して造営される古墳・墳墓を「系列」と捉え、その動向と地域社会や畿内政権との連動を総合的に考察するのである。同時代文字資料のない古墳時代の政治・社会構造を推察するにあたって重視されてきた。近年の広島県の古墳研究は停滞しているものの、わずかながらも新たな発見や発掘調査による知見が蓄積されてきたため、古墳時代前期の首長墓系列の実像とその社会背景を明らかにすることとした。

### 2. 研究の目的

(1) 古墳時代前期には、広島市の太田川下流域に竪穴式石室（石槨）を埋葬施設とする前方後円墳が連続して築造されるが、前期後葉にはその造墓活動も衰退する。一方で、東広島市（西条盆地）における古墳時代前期の主要古墳は前方後円墳や円墳ではあるものの、その後築造される古墳時代中期前葉の三ツ城古墳と同様、竪穴式石室による埋葬施設はみられず、墳頂部には複数の箱形石棺が埋置されていたことがわかってきた（図1）。当該地域の首長墓系列の様相とその成因を探るため、現地調査を行い、首長墓に関わる調査研究・情報公開を行う。

### 3. 研究の方法

(1) まず、西条盆地東南にある長者スクモ塚古墳群の発掘調査を行う。長者スクモ塚古墳群は3基で構成される。スクモ塚第1号古墳（以下、スクモ塚1号墳）は全長60mとなる古墳時代中期の帆立貝形前方後円墳（図1）、スクモ塚2号墳は30mほどの前方後円墳とされていた。しかし、いずれも墳丘形態や築造時期の根拠に乏しかった。また、スクモ塚3号墳は盗掘のため、その所在地が不明となっていた。このため、スクモ塚古墳群の周辺踏査、測量・発掘調査を行い、東広島市（西条盆地）の古墳時代前期から中期の首長墓系列の具体的様相を明らかにすることとした。当該期の西条盆地の中期古墳では、箱形石棺の複数埋葬が盛行しており、広島市太田川下流域の古墳時代前期の首長墓系列とは異なる葬送儀礼へと変容していったと予察することができる。その具体的様相を明らかにする。

(2) 次に、広島市太田川下流域の前期前方後円墳の調査情報を整理する。広島大学考古学研究室では、太田川下流域安佐地区に集中する中小田古墳群・宇那木山2号墳・神宮山1号墳などといった竪穴式石室を内包する前方後円墳の調査記録が保管されているが、これらの調査研究に関わる記録情報や出土遺物の整理・分析を行う。当該地域の比較とともに畿内政権や吉備地域首長、周辺地域の動向を考慮しつつ、古墳時代前期を中心とした広島県西部（安芸地域）の政治的情勢を把握する。

また、広島県内の埋蔵文化財に関わる行政担当者の協力を得て、赤色立体地図などを活用して未確古墳等の位置情報を補足し、実際に現地調査を行うことで未知の古墳（群）を探索するフィールドワークを継続する。



図1 古墳時代前半期の首長墓の分布（広島県西部域）



#### 4. 研究成果

(1) 長者スクモ塚第1号古墳の測量・発掘調査の結果、測量によって前方部とされた高まりは鎌倉時代に形成された土層であることが判明した。このため、スクモ塚1号墳は墳丘南側に簡易な作り出しをもつ直径40mほどの円墳であることがわかってきた(図2)。

また、墳丘南・西側から出土した円筒埴輪突帯の製作技法は、奈良県西殿塚古墳やメスリ山古墳など、畿内中樞域の前期前葉から中葉段階に築造された大型前方後円墳にみられる円筒埴輪の製作技術の一部に属しており、限定的であるにしても畿内中樞域からの技術伝播を想定することができた。その製作技術を勘案すれば、スクモ塚1号墳は古墳時代前期後葉よりも中葉に近い段階を想定できるようになった。さらに、墳頂部には畿内系の粘土槨など、2基の埋葬施設を検出することができた(野島・有松ほか2021、2023)。

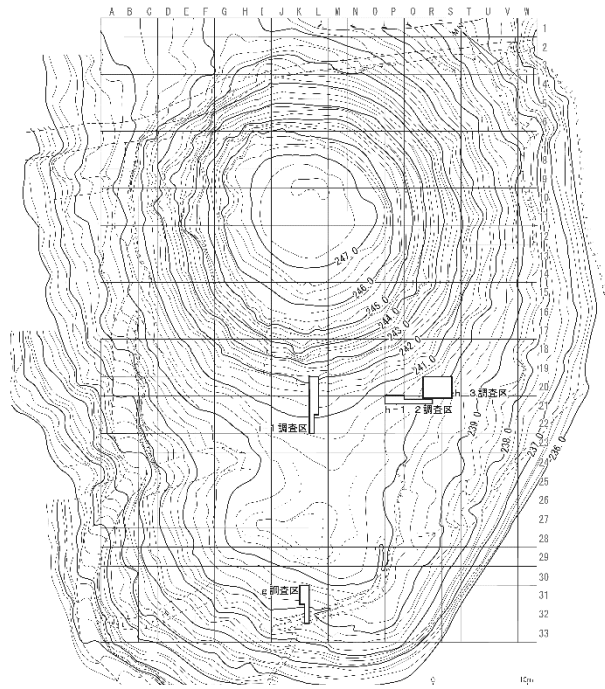


図2 東広島市長者スクモ塚1号墳

(2) 長者スクモ塚2号墳の発掘調査においても、新たな知見を得ることができた。長者スクモ塚2号墳は全長30mほどの小型前方後円墳の可能性が指摘されてはいたが、前方部と想定された部分は自然地形であったため、直径17m前後の円墳であったと判断できる。少なくとも2基の箱形石棺があり、加えて1基の木棺直葬墓が検出された。3回以上の埋葬ごとに墳丘盛土が付加されていったものとみられる。板石材が南側に散乱していた現況からみて、地山成形を施した墳丘南側に箱形石棺が近接して2基あったと想定した。

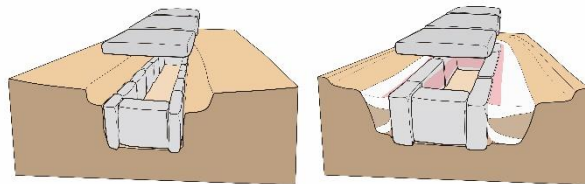


図3 西条盆地の箱形石棺の変化

箱形石棺ST01は長さ3.5m、楕円形に広く掘削して二段墓壇とし、石棺周囲にある程度の空間を故意に設けていた。棺石材の設置後、石棺の周囲には白色粘土を20~30cmほど厚く貼り込んでいた。蓋石設置前後にも石棺周囲30~40cm程度、白色粘土による貼り込み面が見られ、互層状に白色粘土を貼り込んでいた埋設状況を明らかにすることができた(図3右、野島・永野2021)。

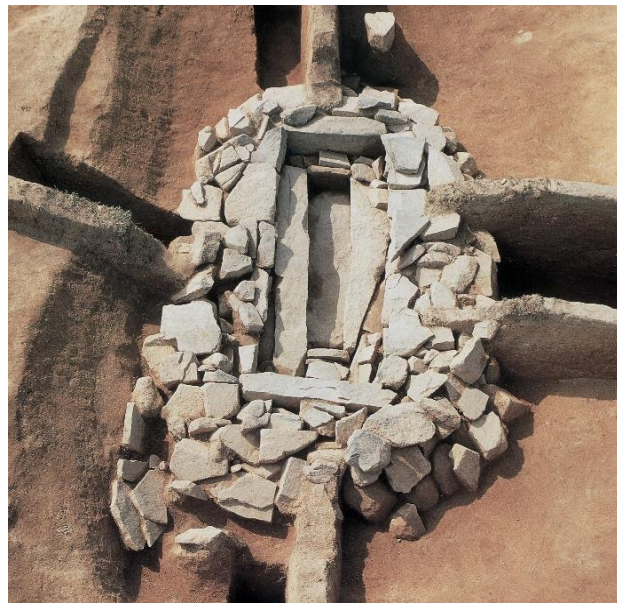


図4 東広島市三ツ城古墳第1号埋葬施設(石槨石棺)

(3) 広島県東広島市の西条盆地では、いくつかの前期古墳がみられる。古墳時代前期前葉頃となる原の谷古墳の埋葬施設は竪穴式石室であった(出野上2003)。その後、前期中葉から後葉にかけて、長者スクモ塚1号墳が築造されるが、竪穴式石室を簡略化した粘土槨が採用されていた。盗掘が著しかったが、倭製鏡をもっていたことが判明した。円墳の周囲には、安芸地方で最古段階の円筒埴輪を巡らせていた。ただし、前期後葉から末葉になると、長者スクモ塚2号墳や仙人塚(千人塚)古墳(古瀬編2010)など、墳頂部に複数の箱形石棺を埋置する円墳が造営されるようになった。

また、東広島市高屋町仙人塚古墳でも、箱形石棺(第1号石棺)の周囲を広く白い粘土で覆っていた。西条盆地では、箱形石棺の周囲を白色粘土で埋め込んでいく設置状況が明らかとなって

表1 広島市太田川下流域と西条盆地の前期古墳

古墳名	所在地	墳丘形態	墳丘規模(m)	埋葬施設形態	出土鏡類	面径(cm) [復元値]	集成 編年	文献
宇那木山第2号古墳	広島市	前方後円	40	竪穴式石室	画文帯神獸鏡 珠文鏡	10.7 10.2	1期	古瀬2006
神宮山第1号古墳	広島市	前方後円	28	竪穴式石室	舶載内行花文鏡片	[11.0]	2期	小清水ほか1986
中小田第1号古墳	広島市	前方後円	28	竪穴式石室	三角縁吾作銘神獸鏡 斜縁上方作銘獸帯鏡	20.1 13.1	2期	潮見編1982
長者スクモ塚第2号古墳	東広島市	円	16	箱形石棺	獸形鏡	5.9	4期	古瀬2006
千人塚古墳	東広島市	円	24	箱形石棺	珠文鏡	7.2	4期	古瀬編2010
三ッ城第1号古墳	東広島市	前方後円	92	箱形石棺	珠文鏡	6.8	6期	石井・三枝編2004
夫婦茶屋古墳	東広島市	円	-	箱形石棺	獸形鏡	12.2	-	古瀬2006

きた。蓋石設置前後に石棺周囲に広く白色の空間を作り出し、水銀朱やベンガラで赤く塗彩した。埋葬の最終段階において箱形石棺による葬送の荘厳化を目論んだようであり、それが西条盆地周辺の古墳時代前期後葉以降の箱形石棺を埋置する主要古墳には、おそらく通有なものであったと想定することができよう。

前期後葉から末葉をとおして、箱形石棺を構成する石材数が少なくなり、より整った直方体の石材を使用し始めたことから、石材上面もより揃えられ、大型の平石を蓋石として使用することが可能になった。これらのことからすれば、西条盆地における主要古墳の箱形石棺は弥生時代のそれ(図3左)とは異なり、埋葬儀礼の複雑化や埋葬施設の荘厳化を目指していたといえる。墓壙の大型化、石棺石材の大型化なども相まって、箱形石棺自体の形態が変容し、その設置から埋葬、埋め戻し作業、蓋石設置に関わる様々な行為が埋葬儀礼と結びついていったとみたい。

東広島市西条盆地に築造された安芸地方最大の前方後円墳、三ッ城1号墳も同様に箱形石棺による埋葬儀礼の延長線上にあったといつてよい。三ッ城1号墳は全長92mになる古墳時代中期前葉の前方後円墳である(石井・三枝編2004)。後円部には3基の埋葬施設がある。いずれも二段墓壙に箱形石棺を中心とした埋葬施設を設置していた(図4)。第1・2号埋葬施設は箱形石棺の周囲に石槨があり、それぞれに蓋石・天井石が架構されていた。石槨の周囲は割石材によって覆われていた。墓壙面を割石で覆うことが重視されていたようにもみえる。埋葬儀礼において視覚的効果を高めている点では、三ッ城第1号古墳の埋葬施設は西条盆地における一連の箱形石棺による埋葬儀礼の発展的形態とみてよからう。スクモ塚2号墳や千人塚古墳でみた石棺周囲の白色粘土の貼り込みの代わりに、石敷き面を作り出し、より荘厳な埋葬施設を作り上げることに努めていたと想定することができよう。

古墳時代前期後葉、西城盆地周辺の主要古墳は箱形石棺への強い志向性を示した。主要古墳では箱形石棺を中心とした埋葬施設の荘厳化の過程を辿っていたことがわかる。

#### (4) 箱形石棺を埋葬施設とする墳丘構造

まず、古墳時代前期前半の西条盆地周辺の有力首長墓にはすでに墳丘外縁部に土堤状盛土がみられた。原の谷古墳など竪穴式石室の構築にあたっては、墳丘中心部分に水平積みによる基底面の造成がみられ、大型墓壙を構築する土木工法が導入されていたようである。しかし、前期後葉の円墳の墳丘構築状況をみれば、埋葬を繰り返しながら、墳丘盛土を積み上げる同時進行型の墳丘構築が継続していたとすることができる。西条盆地の埋葬施設は弥生時代以来、断続的にではあれ、箱形石棺を継承していたことにも起因している。箱形石棺は竪穴式石室に比べ、比較的小規模な基底面であっても墓壙の掘削から石棺設置、埋葬までが可能となる。西条盆地における箱形石棺の盛行をみれば、墳丘構築に際して新たな土木工法を受容しつつも、墳丘を構築しつつ箱形石棺を数回埋置する在地的な墳墓に回帰する転機があったかと思える。

#### (5) 広島県安芸地域の首長墓系列の相違

広島市の太田川下流域(広島湾岸)には、弥生時代終末期に石囲い(石槨)墓が造営された。西願寺北墳墓、西願寺墳墓群、梨ヶ谷墳墓群と続く。吉備地域を中心とした東部瀬戸内地域からの影響を強く受けていたようであり、大陸との対外的な交渉に関与していた瀬戸内海民集団とみることができる。古墳時代前期初頭以降、宇那木山2号墳(広島大学大学院文学研究科考古学研究室2002、古瀬2006)、神宮山1号墳(小清水ほか1986)、中小田1号墳など、前方後円墳が連綿と築造された。竪穴式石室(石槨)を埋葬施設とし、画文帯神獸鏡や内行花文鏡、三角縁四神四獸鏡など、漢魏の舶載鏡が副葬された(表1)。

しかし、一方で東広島市(西条盆地)では、古墳時代前期前葉頃に原の谷古墳、前期中葉以降にスクモ塚1号墳が造営されていたとわかってきた。スクモ塚1号墳は墳頂部に粘土槨をもち、安芸地域では最古段階となる円筒埴輪を埴裾に巡らした。その後の前期後葉から末葉には、白鳥神社古墳や丸山神社古墳、仙人塚古墳などが築造されたが、おそらくは円墳ばかりで、墳頂部に箱形石棺が複数埋置されるようになっていた。西条盆地の箱形石棺を埋置する円墳では面径の小さな倭製鏡しか副葬されなかった。きわめて対照的な事象であったといえる。

広島湾岸における畿内政権の影響はかなり直接的であり、墳丘築造・埋葬施設の造営協力とともに、舶載鏡の贈与を受けた。その一方で、西条盆地では伝統的な箱形石棺や、石棺を粘土や石で囲う在地墓制を引き継いだ。小型倭製鏡しか副葬されなかったことから、畿内政権の影響はきわめて間接的、断片的と言わざるをえない。古墳時代前期の安芸地域では、畿内政権との交流の有無によって、墳丘形態や埋葬施設、さらには副葬品にまで明確な格差が生じていたとみてよい。

しかし、古墳時代中期になると、畿内政権の変革とともに、海上航行の困難な安芸灘よりも陸路の要衝、西条地域が重視され、三ツ城古墳の造営へと向かった。河内政権下の王陵に類したプランをもつ大型前方後円墳でありながら、在地系埋葬施設を荘厳化したものとなっていたのである。安芸灘周辺の海域を航行するのではなく、海田市瀬野川から西条盆地を船越して沼田川を通り、三原本郷に至る陸路はその後も重視され、7世紀の安芸古代山城、長者山城の造営や古代山陽道のルートにもかかわることとなった。

#### 参考文献

- 石井隆博・三枝健二編 2004『史跡三ツ城古墳発掘調査報告書』文化財センター調査報告書第42冊、東広島市教育文化振興事業団。
- 出野上 靖 2003『原の谷古墳・原の谷遺跡発掘調査報告書』文化財センター調査報告書第37冊、東広島市教育文化振興事業団。
- 小清水圭子・須藤敦子・妹尾有規子・中摩浩太郎 1986「神宮山第1号古墳・3号古墳の測量調査成果報告」『続トレンチ』第6巻第4号、広島大学文学部考古学研究室・続トレンチ編集委員会。
- 潮見 浩編 1982『中小田古墳群』広島市の文化財第16集、広島市教育委員会。
- 下江裕貴・永野智朗・藤澤昌弘 2018「東広島市長者スクモ塚第1号古墳測量調査」『広島大学大学院文学研究科考古学研究室紀要』第10号、広島大学大学院文学研究科考古学研究室、41～70頁。
- 永野智朗 2018「東広島市長者スクモ塚第2号古墳測量調査」『広島大学大学院文学研究科考古学研究室紀要』第10号、広島大学大学院文学研究科考古学研究室、71～86頁。
- 野島 永・永野智朗 2021「東広島市長者スクモ塚第2号古墳発掘調査報告（第2～4次調査）」『広島大学大学院人間社会科学研究科 広島大学考古学研究室紀要』第12号、1～42頁。
- 野島 永・有松 唯・宇野真太郎・小出来恒平・竹田千紘・森木 琉・Rac, Carmen 2021「東広島市長者スクモ塚第1号古墳発掘調査報告（第5次調査）」『広島大学大学院人間社会科学研究科考古学研究室紀要』第12号、広島大学大学院人間社会科学研究科考古学研究室、43～78頁。
- 野島 永・有松 唯・宇野真太郎・竹田千紘・船越雅子 2023「東広島市長者スクモ塚第1号古墳発掘調査報告（第6次調査）」『広島大学大学院人間社会科学研究科 広島大学考古学研究室紀要』第13号、79～109頁。
- 広島大学大学院文学研究科考古学研究室 2002『宇那木山第2号古墳発掘調査報告会資料』。
- 広瀬和雄 1991「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成』中国四国編、山川出版社、24～26頁。
- 藤野次史 2015「東広島市丸山神社古墳群の測量調査」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第6号、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門、97～134頁。
- 古瀬清秀 1991「安芸」近藤義郎編『前方後円墳集成』中国四国編、山川出版社、92～94頁。
- 古瀬清秀 2006「安芸・備後における前期古墳の様相」『日本考古学協会 2006年度愛媛大会研究発表資料集』日本考古学協会 2006年度愛媛大会、371～400頁。
- 古瀬清秀編 2010『千人塚古墳』東広島市教育委員会・広島大学文学研究科考古学研究室。
- 松崎寿和 1979「白鳥古墳」『広島県史』考古編、広島県、424頁。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 野島 永・有松 唯・宇野真太郎・竹田千紘・船越雅子	4. 巻 13
2. 論文標題 東広島市長者スクモ塚第1号古墳発掘調査報告（第6次調査）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科考古学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 79-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/55128	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 野島 永	4. 巻 51
2. 論文標題 東広島市長者スクモ塚第1号古墳の調査略報	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中四研だより（中国四国前方後円墳研究会）	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 野島 永、有松 唯、宇野 真太郎、小出来 恒平、竹田 千紘、森木 琉、RAC Carmen	4. 巻 12
2. 論文標題 東広島市長者スクモ塚第1号古墳発掘調査報告（第5次調査）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科考古学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 43～78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/52259	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 野島 永、永野 智朗	4. 巻 12
2. 論文標題 東広島市長者スクモ塚第2号古墳発掘調査報告（第2～4次調査）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科考古学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 1～42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/52258	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 野島 永	4. 巻 152
2. 論文標題 書評 辻田淳一郎著「鏡の古代史」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊 考古学	6. 最初と最後の頁 118-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野島 永・森本直人・藤澤昌弘・下江裕貴	4. 巻 11
2. 論文標題 広島県神石高原町高蓋塚谷古墳をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院文学研究科 広島大学考古学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 57-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野島 永・稲村秀介・村田 晋	4. 巻 11
2. 論文標題 佐田谷・佐田峠墳墓群の特別展示をおえて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院文学研究科 広島大学考古学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 野島 永
2. 発表標題 広島県の古墳の調査と畿内政権
3. 学会等名 リテラ「21世紀の人文科学講座」(広島大学大学院連携講座)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------